

# 枠にとらわれない学びが 理系分野の未来も拓く

国内生と海外生が、自分の関心や将来の目標とマッチした履修計画を作成して学ぶ岡山大学のグローバル・ディスカバリー・プログラム（以下、GDP）。英語で開講される GDP 科目を中心に学ぶ「ディスカバリー専修トラック」、他学部での学びと GDP 科目を組み合わせる「学部・学科横断型マッチング・トラック」がある。理系分野に軸足を置いて「学部・学科横断型マッチング・トラック」で学ぶ学生に話を聞いてみた。

## 生物の学びと社会への興味 どちらも満たせる場所

現在、GDPに所属しながら理学部生物学科の科目を中心に学ぶ2年生の手塚都仁さん。高校では物理を選択していたが、GDPに入学後、様々な学部学科の学びに触れて生物学に決めた。特に、ホルモンや細胞成長因子による生体制御のしくみを探る分子内分分泌学に興味を持ち、研究室に自らアポを取ってゼミにも参加している。

高校でのノルウェー留学がGDPを志望するきっかけとなった。ノルウェー語を母国語としながら英語で授業を行い、さらに各自が第三外国語も学ぶ。そんなグローバルな学習環境に刺激を受けた。世界情勢をテーマとする授業を通して、社会にも関心が向いた。あの時のような環境で、理系分野も社会についても学びたい。それがかなうのがGDPだった。GDPでは学生1名に対し、担任、履修アドバイザー、研究分野の教員の3名がサポートする。手塚さんは様々な選択肢やアドバイスを提供してもらい、生物学と社会学の科目を含んだ履修計画を作成して希望の学びを実現している。社会学の授業では、様々な国から来た学生とのディスカッションを通して、文化や価値観の違いを発見することも多いという。手塚さんの研究テーマを一言で言うと「人間」。「人はなぜ、どのようにして生きているのか。生物学と社会学の両面から迫っていきいたい」と目を輝かせた。

## 多様な知識と多角的な視点から 環境問題を深く探究

3年生の田中朱音さんが、GDPに入学前から関心を持っていたのは環境問題。地元の自然が人の営みによって壊されていくことに心を痛めていた。そんな環境マインドにフィットしたのがGDPだった。GDPの説明会で、環境に良い技術があっても、文化的・経済的など様々な社会的要因で活かされないことがあるという事実を知り、衝撃を受けた。広い視野で環境問題について考える必要性を強く感じたという。



手塚都仁さん（GDP2年 栃木県立矢板東高校出身）



田中朱音さん（GDP3年 兵庫県立西脇高校出身）

GDPでは環境理工学部環境物質工学科（2021年4月からは工学部工学科に改編）の科目を中心に、化学的な視点から環境問題にアプローチしている。また、他の学部学科の科目とGDP科目も履修し、環境社会学や政治学、宗教学など幅広い分野を学んでいる。例えば、環境問題の解決に役立つ技術について、効率性や経済性、民族的・文化的側面など、多様な知識を背景に多角的な視点から考えられるようになった自分に、田中さんは学修の成果を実感しているという。様々な専門やバックグラウンドを持つ学生との交流も「自分を成長させる豊かな学びになっている」とのこと。身についた知識と考え方を活かし、田中さんが次に目指しているのは大学院への進学だ。2050年の温室効果ガス排出ゼロに向けて動き始めた日本。「その未来に貢献するためにも、環境問題の探究と自分磨きを続けたい」と抱負を語ってくれた。

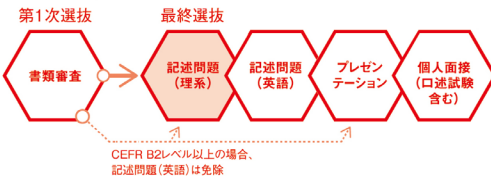
## ディスカバリー入試（総合型選抜）

募集人員 27人

文系【17人程度】



理系【10人程度】



※出願時に文系、理系いずれか一方を選択の上、受験します。この区分は、受験上の区分であり、高等学校等における文系、理系の区分とは異なります。  
 ※英語資格・検定試験の成績提出は、必須（出願資格）とし、成績を書類審査等に含めて評価します。また、英語資格・検定試験で「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」（文部科学省（平成30年3月）作成）に基づくCEFRのB2レベル以上の成績を提出した者は、「記述問題（英語）」の得点を満点とみなし、試験を免除します。  
 ※この他に秋入学の30名を選抜する国際入試もあります。

## これからの課題解決に必要な 自分で考える力や独創性を重視

春入学の国内生を対象とするディスカバリー入試は文系と理系に分けて実施され、入学後の進路希望に合わせて受験できる。出願資格として、英語資格・検定試験を受験していることが必要だ。まずは、英語に苦手意識を持たず、英語資格・検定試験にチャレンジすることでスタート地点に立てる。ディスカバリー入試ならではの「プレゼンテーション」だ。理系入試では、高校での課題研究や実験、自身の体験や経験に基づき発表を行う。ここで評価されるのは、自分で考える力や独創性。それは、入学後のGDPの学び、そして従来の常識が通用しないこれからの社会課題の解決のために最も重要な能力と言える。枠にはまらないオリジナリティをGDPは大切にしている。